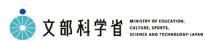
新e-Radの主な変更点

平成24年11月



大臣官房政策課 情報化推進室 研究振興局 振興企画課 競争的資金調整室

新e-Rad開発のコンセプトについて

コンセプト

利用者の研究費の申請と管理に関する業務の手間を減らす。

観点1 現行システムにおける問題点の解消

手法:ユーザビリティ調査(システムの使いやすさに関する調査)

以下の調査を実施し、現行システムにおける問題点を抽出・分析。

- 利用者へのWebアンケート(回答総数 7,540 件)
- ・ヘルプデスクへの問い合わせ分析(対象件数 76,602 件)
- •専門家によるシステム利用調査

観点2 利用者からの要望に基づく新たな機能追加

手法: Webアンケート調査

上記ユーザビリティ調査と合わせて実施。さらに、回答者に対して追跡アンケートも実施。(回答総数のべ8,943 件)。

改善要望の具体例

事務代表者/分担者

[追加した方が良いと思う機能や手続き] ・各業務の操作の流れが分かるガイド ・電子証明書の有効期限通知 ・応募書類など提出後の修正機能	[新システムでの対応] 作成中の操作マニュアルで対応予定 電子証明書を廃止 提出締切り前であれば、修正可能に
[無くした方が良いと思う機能や手続き] ・申請書PDFのパスワード ・電子証明書関連の業務全体	申請書PDFのパスワードを廃止 電子証明書を廃止

研究者			
[追加した方が良いと思う・公募開始時などのメール・研究者番号からの研究・エフォートの修正や管理	レ通知 ・・・・・・・ 者情報登録 ・・・・・・・・	番号とフリガナで追加可能に	
[無くした方が良いと思う材・申請書PDFのパスワード・多すぎる入力項目		申請書PDFのパスワードを廃止過去課題からのコピー機能やReaD&Researchmapとの連携	3

説明資料の構成



右上のアイコンは紹介する機能の対象者を表しています。

左:研究者、右:研究機関

本資料の構成は以下のとおり。主要な機能のみ、紹介する。

1.研究機関向け機能

1-1. 研究者の管理

- ①研究者の新規登録時のメール通知
- ② ログインID/パスワード再通知機能
- ③ 職情報の登録方法の変更

1-2. 申請手続きの管理

- ① 研究機関における独自情報登録機能
- ② 承認手続き方法の変更
- ③ 承認依頼メールの通知頻度変更
- ④ 締め切り前メールの送付
- ⑤ 応募情報の引き戻し(事務代表者)
- ⑥ログイン認証方法の変更
- ⑦事務分担者への代表者権限の付与

3. その他共通機能

- ① ログイン画面の統合
- ②ページ内容に沿ったヘルプ情報の表示
- ③ エフォート管理機能の強化

2. 研究者向け機能

2-1. 応募を行う

- ① 申請様式ファイルの変換/提出タイミングの変更
- ② 研究分野情報の変更
- ③ 応募情報入力画面の改善
- ④ 研究分担者追加の簡略化
- ⑤ 過去の応募/採択課題情報のコピー機能
- ⑥ 研究分担者への編集/閲覧権限の付与
- ⑦ ReaD & Researchmapとの連携
- ⑧ 応募情報の引き戻し(研究者)
- ⑨ 画面へのタイマー表示機能

2-2. 公募を探す

- ① 公募案内のメール通知
- ② 公募の検索機能の追加

2-3. その他

①機関別ログインIDの統合

2

1-1. ① 研究者の新規登録時のメール通知



これまで

研究者を登録する場合、e-Rad上でログインID通知書を作成した上で印刷し、それを本人へ送付する必要がある。

1. e-Rad上で新規登録

2. ID通知書を印刷

3. 紙媒体で本人宛に送付











<問題点>

- ・【研究者】登録されてからログインできるようになるまで時間がかかる。
- ・【研究機関】Wordファイルの差し込み印刷が難しい。
- 【研究機関】紙媒体への印刷や郵送の手間が面倒。

5

1-1. ① 研究者の新規登録時のメール通知



これから

メール通知でログイン情報を通知できるように!

研究者を新規登録した時点で本人宛にログインのためのURLと初回パスワードが記載されたメールが送信されるようになる。

1. e-Rad上で新規登録

2. 自動的にメール配信



注音)

初回ログインを行うためにはメールに記載されている初回パスワードと別に、研究者登録時に設定する「初回ログイン認証コード」が必要。この情報はシステムからは通知されないため、メールや電話などで別途ご本人へ連絡していただく必要があります。

く改善ポイント>

- 【研究者】登録してからログインするまでの時間短縮。
- ・【研究機関】印刷と郵送の手間の解消。

6

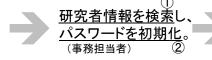
1-1. ② ログインID/パスワード再通知機能



これまで

■ 研究者がやパスワードを忘れてしまったら?

パスワード を忘れた! (研究者)



<u>ログイン情報通知書</u>を 印刷し研究者に郵送。 (事務担当者)

通知書を元に再度 ログイン設定を行う。 (研究者)



「研究者所属情報一覧」画面 グイン情報通知書出力								
選択	研究者番号	研究者名	所属研究機関名	所属部局名	-	更新日	研究者内容	パスワード
	XXXXXXXXXX	ケンキュウ イチロウ 研究 一郎	XXXXX大学	XXX35	教授	2005/00/00	修正 確認 課題	パスワード初期化
	X0000000K	ケンキュウ ゴロウ 研究 五郎	20000(大学	XXXX	क्रश्र	2005/00/00	修正 確認 課題	パスワード初期化
	X0000000X	ケンキュウ サブロウ 研究 三郎	200000大学	2000(部	软披	2005/00/00	修正 確認 課題	パスワード初期化
			1					2

<問題点>

- ・【研究者】 事務担当者がいないと再設定の手続きができない。また再設定までに時間がかかる。
- ・【研究機関】研究者がパスワードを忘れるたびに、再設定の手続きを行わなければならない。

1-1. ② ログインID/パスワード再通知機能



これから

研究者が自分自身で再発行の手続きが行えるように!

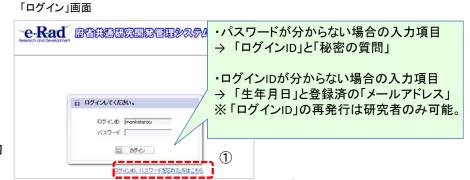
ID/パスワードを忘れた!



本人が画面で再発行処理



本人のメールアドレスへ自動 的にメール通知



- ・【研究者】 事務担当者に連絡しなくても、自分で再通知手続きが可能。
- ・【研究者】パスワードを忘れた場合だけでなく、ログインIDを忘れた場合にも再通知可能。
- 【研究機関】再設定の手間の解消。

1-1. ③ 職情報の登録方法の変更



これまで

研究者の職情報が実際の職名で登録できない・・・



「研究者	情報登録」	画面			
e-Rad	Research and Deve 府省共通研究	lopment 開発管理システム			
>>>>	研究者情報	最登録			
【所属情報】		Tr. 103	/ 10 FL) WWW.		
所属研究機関		(¬-F) 9999	(名称) 研究大学		
æ		* (コード)	一覧	※「その他」の場合のみ	・入力してください 🗸
'		□ポストドクター		 	j
申請時連絡先	メールアドレス1				
7.2.4070	メールアドレス2				
状態		機関所属			

- ・職情報がシステムで標準設定された 固定的な一覧からしか選択できない。
- <選択可能な職情報>
- •教授、准教授、講師、助教、助手等

<問題点>

大学等以外での研究者登録の際に、正しい職情報での登録が行えない。

1-1. ③ 職情報の登録方法の変更



これから

研究機関ごとに独自の職情報の登録を行えるように!「職階」と主な役職の対応表

- •右の職階を選択した上で職情 報の登録を行うことができる。
- ・職階の他、職情報に関連する 情報(雇用形態、雇用財源、任 期の有無)も登録。
- ※「職名」に付随する「雇用財源」、「雇用 形態」、「任期の有無」の情報は将来的な 調査分析のために用いるものであり、審 査等その他の目的のために使用されるこ とはありません。

全体の職階	大学の職名	大学以外の研究機関の職名			
牧長・如 ■ カニフ	名誉教授クラス	部長クラス			
教授・部長グラへ	教授クラス				
	准教授クラス	室長・グループリーダークラス			
非好 贴券 卧子 L 安班 克昌	専任講師クラス				
	助教クラス	上席・主任研究員クラス			
<i>,</i> , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	助手クラス				
研究員・ポスドククラス	研究員・ポスドククラス				
	事務系・行政職員クラス				
贈昌(東教委・世術委)カニフ	技術技能系職員クラス				
戦員(争務ボ・技術ボ/ブノヘ	医療系職員・医師(研修医含む)クラス				
	教務系職員(非	常勤講師を含む)クラス			
博士課程クラス	博士課程学生クラス	<該当なし>			
その他	その他	その他			
	全体の職階 教授・部長クラス 准教授・室長・グループリーダクラス 講師・助教・助手・上席研究員クラス 研究員・ポスドククラス 職員(事務系・技術系)クラス 博士課程クラス	教授・部長クラス 名誉教授クラス 教授クラス 推教授・室長・グループリーダ クラス 講師・助教・助手・上席研究員 クラス 講師・助教・助手・上席研究員 カラス 助教クラス 助手クラス 研究員・ポスドククラス 職員(事務系・技術系)クラス 職員(事務系・技術系)クラス 職員(事務系・技術系)クラス 「生課程クラス 「博士課程クラス 名誉教授クラス 事任講師クラス 助教クラス 助手クラス 研究員・ 事務系・ 技術技術 医療系職員・医 教務系職員(非常 「博士課程学生クラス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			

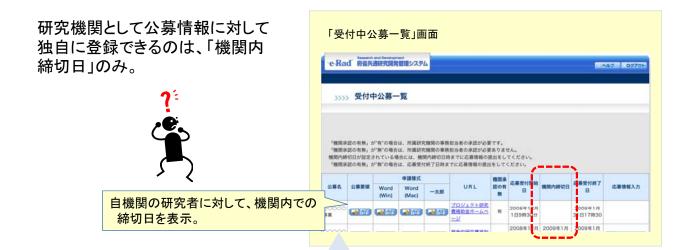
く改善ポイント>

研究機関で職情報が登録可能となることで、大学等以外であっても正しい職名での登録 が可能。

1-2. ① 研究機関における独自情報の登録



これまで



<問題点>

- ・【研究者】公募に関する情報が分散していて分かりにくい。
- ・【研究機関】自機関の情報を共有するためには、メールや学内のホームページを使うし かない。

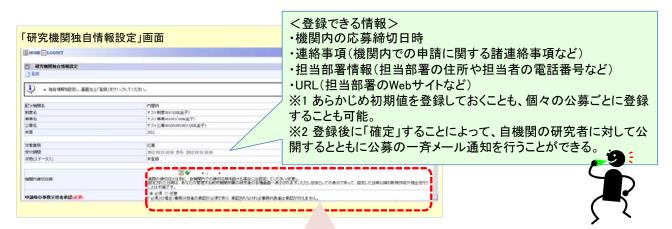
11

1-2. ① 研究機関における独自情報の登録



これから

自機関内の独自情報をe-Rad内の「公募一覧」で公開できるように!



- ・【研究者】公募に関する情報の収集に手間取らずに済む。
- 【研究機関】研究機関独自の情報を研究者に対して周知しやすくなる。

1-2. ② 承認手続き方法の変更



これまで



- ・事務担当者のところに承認要請が来 ているかどうか、業務画面を開いて みないと分からない。
- ・応募受付以外にも、変更申請・交付申請、成果報告等の承認申請もあり、 これらは別の画面から承認・却下を 行わなければならない。



<問題点>

・承認等の手続きをしなければならない対象の課題がどれほどあるのか分かりにくい。

13

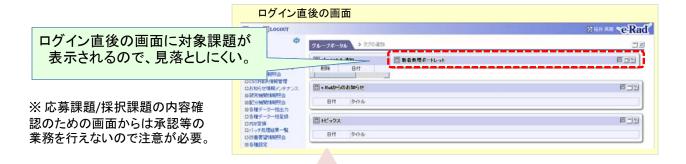
1-2. ② 承認手続き方法の変更



これから

承認や修正依頼の手続きが必要な課題の一覧画面を追加!

ログイン直後の画面に「未処理一覧」画面を表示、この画面に全ての申請手続きにおいて承認等の手続きが必要な課題が一覧で表示される。



く改善ポイント>

・承認や修正依頼の手続きが必要な課題が一覧できるため、確認漏れ・承認漏れを抑止できる。

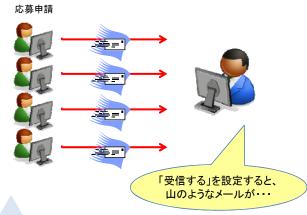
1-2. ③ 承認依頼メールの通知頻度変更



これまで

メール通知の設定は、「送信する」か「送信しない」かの選択肢のみ。





<問題点>

・メールの頻度の設定が行えない。したがって、「送信する」を選択すると、研究機関の 規模によっては、事務担当者に大量のメールが配信されることになってしまう。

15

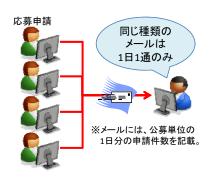
1-2. ③ 承認依頼メールの通知頻度変更



これから

承認依頼メールを1日ごとにまとめて受け取れるように!

メールの設定の中で、受信頻度を「1日ごと」、「課題ごと」で選択できるようになる。





く改善ポイント>

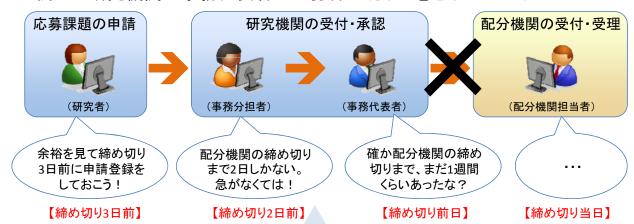
・設定を適宜切り替えることにより、大量のメールに悩まされることがなくなる。

1-2. ④ 締め切り前メールの送付



これまで

■ 例えば研究機関の事務代表者が応募締め切り日を忘れていたら?



<問題点>

- ・【研究者】締切日間際に未提出の課題があることを確認を促す手段が無いため、提出 し忘れの危険がある。
- ・【研究機関】承認作業を忘れてしまった場合に、確認を促す手段がない。

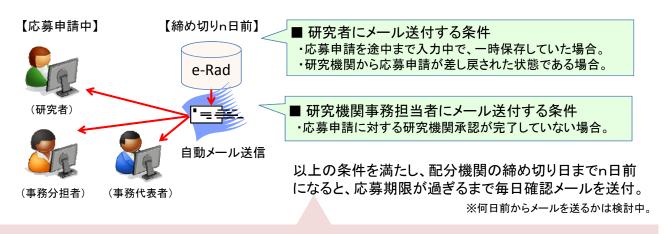
17

1-2. ④ 締め切り前メールの送付



これから

締め切り前にメールで確認のお知らせを通知!



- 【研究者】応募の申請の提出し忘れを抑止することができる。
- ・【研究機関】研究者から提出された申請書類の承認等の処理のし忘れを抑止することができる。

1-2. ⑤ 応募情報の引き戻し(事務代表者)



これまで

応募情報を一旦提出してしまうと、配分機関の事務担当者へ依頼しない限り、

再度編集できるようにならない。

事務代表者

配分機関担当者は「修正依頼」という形で事務代表者/研究者へ戻すことが可能。



配分機関担当者

事務代表者/研究者は提出した情報を自分で出し直しすることができない。

<問題点>

- ・【研究者】提出後にミスに気付いた際に、配分機関担当者へ連絡をしなければ修正が行えない。
- ・【研究機関】依頼のたびに、修正依頼の処理を行う手間がある。

19

1-2. ⑤ 応募情報の引き戻し(事務代表者)



これから

事務代表者によって、提出した応募情報の出し直しを可能に!



・「引き戻し」可能なタイミング 受付期間の締切日、もしくは配分機関による「受理」が 行われるまで。

事務代表者によって提出した応募情報の出し直し(「引き戻し」)ができるようになる。

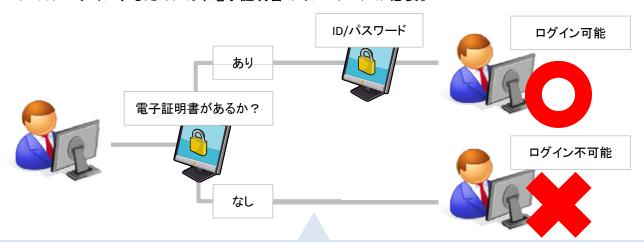
- ・【研究者】配分機関担当者へ依頼を行う手間なく、修正作業が可能。
- -【研究機関】依頼のたびに、修正依頼の処理を行う必要がなくなる。

1-2. ⑥ ログイン認証方法の変更



これまで

e-Radにログインするためには、電子証明書のインストールが必要。



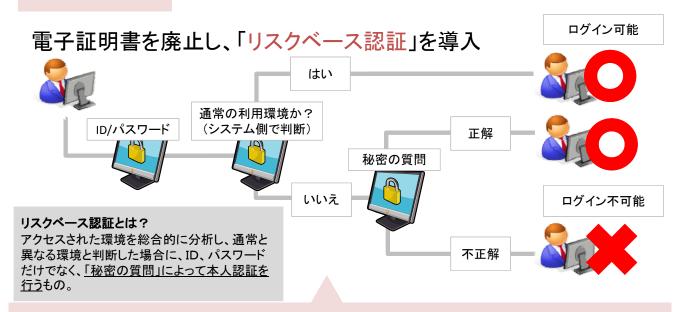
<問題点>

- ・【研究機関】電子証明書の発行や更新等の手続きが煩雑で面倒。
- ・【研究機関】電子証明書のインストール時にトラブルが多数発生する。
- ・【研究機関】インストールされたパソコンからしかログインできず、パソコンを換えるたびに電子証明書のインストールが必要になる。

1-2. ⑥ ログイン認証方法の変更



これから



- ・電子証明書の管理やインストール等の業務から解放される。
- ・複数のPCからもアクセスが可能。

1-2. ⑦ 事務分担者への事務代表者権限の付与



これまで

事務代表者はe-Rad上で担当する業務が多いにもかかわらず、研究機関で1名のみしか登録できない。

<事務代表者>

研究機関においてe-Radに係る事務を総括する者のこと。事務代表者は、事務分担者及び研究者の情報を管理します。また、研究者による応募の承認(機関レベルでの承認)などの業務を行う。

<事務分担者>

事務代表者以外で研究機関においてe-Radの事務を分担する者のこと。事務分担者は、自分の担当している部局(事務代表者が設定)の範囲内の研究者の情報の管理、研究者による応募の確認(部局レベルでの承認)などの業務を行う。



<問題点>

- 事務代表者が不在時に承認処理が行えなくなるおそれがある。
- ・事務代表者に業務が集中してしまう。
- ・結果としてIDの使い回しが発生してしまう。

23

1-2. ⑦ 事務分担者への事務代表者権限の付与



これから

事務分担者へ事務代表者の権限を付与できるように!

事務分担者の登録画面において、「事務代表者権限」にチェックを入れることで、事務代表者と同等の権限を持てるようになる。



- 事務代表者が不在時であったとしても承認処理が行えるようになる。
- 事務代表者としての業務を複数人で分担することが可能。
- IDの使い回しをする必要がなくなる。

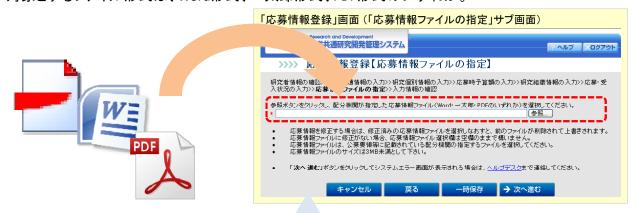
2-1. ① 申請様式ファイルの変換/提出タイミングの変更



これまで

※申請様式ファイルとは? 応募を行う際にe-Rad上で入力する項目とは 別に作成が必要なWordなどのファイルのこと

申請様式ファイルの変換と提出は同じタイミングで行われる。 対象とするファイル形式は、Word形式、一太郎形式、PDF形式のいずれか。



<問題点>

- ・提出時点でのPDF変換処理でエラーが発生する場合がある。また正しくPDFに変換されない場合もある。
- ・システム上、アップロードとPDF変換が同時に行われるため、システムへの負荷が大きい。(アクセスが集中した場合にシステムが不安定になることがある。)

2-1. ① 申請様式ファイルの変換/提出タイミングの変更

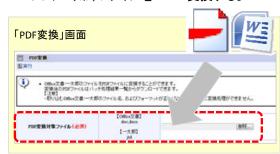


これから

申請様式ファイルの変換と提出の手続きを別のプロセスへと分割

PDF変換の専用ページを設けて、事前に変換を行った上で、提出が行えるようにする。

【ステップ1:PDF変換】 Wordや一太郎ファイルをPDFへ変換する。



【ステップ2:申請様式ファイルの提出】 「ステップ1」で作成したPDFファイルを提出する。 注意)この時点では、PDFファイルのみ提出可能。



- 変換されたPDFを提出する前に確認することができる。
- ・応募申請登録の際にはファイル変換を行わないので、登録時のシステム負荷が減る。 (アクセスが集中する時間帯であってもシステムの安定稼働を確保する。)

2-1. ② 研究分野情報の変更



これまで

応募時に入力が必要となる、応募内容の該当する「研究分野」は、「第3期科学技術基本計画」 における「戦略重点科学技術分野」に基づく研究区分。

「戦略重点科学技術分野」について

「第3期科学技術基本計画」において、「政策課題対応型研究開発の戦略的重点化が必要」との問題認識から総合科学技術会議によって定められた研究分野であり、「重点推進4分野(ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料)及び推進4分野(エネルギー、ものづくり技術、社会基盤、フロンティア)の各8分野」からなる。



<問題点>

・幅広い研究分野の網羅的な分類が行えない(特に「人文・社会」が全て一括りにされてしまっている)。

27

2-1. ② 研究分野情報の変更



これから

科研費の「系・分野・分科・細目表」の採用!

応募時に入力する「研究分野」を科学研究費助成事業(科研費)で利用されている「系・分野・分科・細目表」へ変更する。

「系・分野・分科・細目表」について

「人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究(研究者の自由な発想に基づく研究)を対象とした競争的資金」である科研費において、研究者が審査を希望する分野を選択する際に利用する分類表。



く改善ポイント>

選択肢が増えることにより、より正確な「研究分野」によって応募/審査を行うことが可能。

2-1. ③ 応募情報入力画面の改善



これまで

応募時の入力は一方通行で、必須項目を全て入力しない限り、次の画面には進めない。 =書けるところから埋めていくことが出来ない。



<問題点>

- ・入力できる項目から入力することができない。
- ・全体でどの程度入力項目が存在するのかが分からない。

29

2-1. ③ 応募情報入力画面の改善



これから

どこからでも入力できます



- 入力できる項目から入力することができる。
- ・入力が必要な項目をあらかじめ把握しておくことができる。

2-1. ④ 研究分担者追加の簡略化



これまで

研究分担者の追加を行うためには、必要となる情報を 全て手入力する必要がある。

研究分担者を1名追加するために、8項目への入力が必要。



<問題点>

- 入力作業が非常に面倒。
- ・入力間違いを助長する。

31

2-1. ④ 研究分担者追加の簡略化



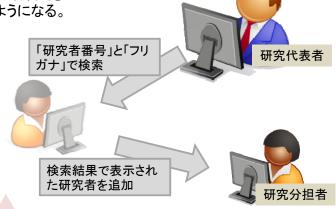
これから

研究者情報を検索することで研究分担者追加を行えるように!

研究分担者の追加は検索画面から行う。「研究者番号」と「フリガナ」で研究者情報を検索して登録が行えるようになる。

知らないうちに研究分担者として登録されてしま うのではないかという懸念について

登録された時点では通知されないものの、権限付与時(2-1.⑥参照)もしくは研究機関への提出時点で研究分担者宛てにメール通知が行われる。したがって、遅くとも提出時点では自身が登録されている場合には把握することが可能。



- 入力作業の手間の解消。
- ・入力間違いと確認の手間を減らすことができる。

2-1. ⑤ 過去の応募/採択課題情報のコピー機能



これまで

過去の応募情報を利用するような 機能は存在しない。



<問題点>

・応募を行うたびに、単純な入力作業が発生する。

33

2-1. ⑤ 過去の応募/採択課題情報のコピー機能



これから

過去の応募/採択課題の内容をコピーして応募できるように!

応募を行う際に過去の応募/採択課題の内容を選択して、その内容をコピーできるようになる。

<コピー対象となる項目> 研究分野、研究目的、研究概要、研究組織 など

<コピー対象とならない項目> 個別項目(配分機関ごとに設定する入力項目)、応募時 予算額など



く改善ポイント>

- 単純な入力作業の軽減。
- ・応募の本質的な部分(申請内容の部分)への注力が可能。

34

2-1. ⑥ 研究分担者への編集/閲覧権限の付与



これまで

応募情報は「研究代表者」のみが作成可能。「研究 分担者」は閲覧することも一切できない。







<問題点>

- ・研究代表者だけに入力作業の手間が集中してしまう。
- ・登録内容の情報共有を別の手段で行うための手間がかかる。

35

2-1. ⑥ 研究分担者への編集/閲覧権限の付与



これから

権限を付与することで、研究分担者も編集/閲覧が可能に!

応募情報の入力画面において、「研究代表者」 が「研究分担者」に対して編集/閲覧権限を与 えられるようになる。

編集権限を与えられた「研究分担者」は、応募情報の編集が行えるようになる※。

※リリース時点では「楽観的ロックアウト」(他の人が編集中の場合も編集可能、ただし先に保存が行われると編集内容が保存できなくなる)での提供。将来的には「悲観的ロックアウト」(他の人が編集中の場合は編集できない)へ対応予定。

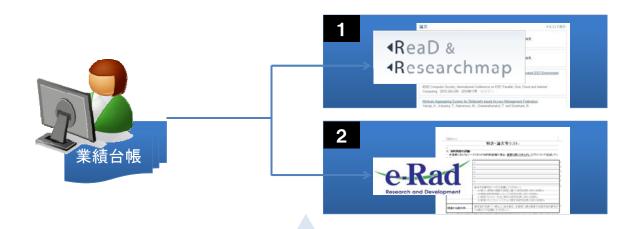


- ・研究組織内での入力作業の役割分担が可能。
- •e-Rad内での情報共有が可能。

2-1. ⑦ ReaD & Researchmapとの連携



これまで



<問題点>

- 入力作業が面倒。
- ・公募ごとに異なるフォーマットで作成が必要。

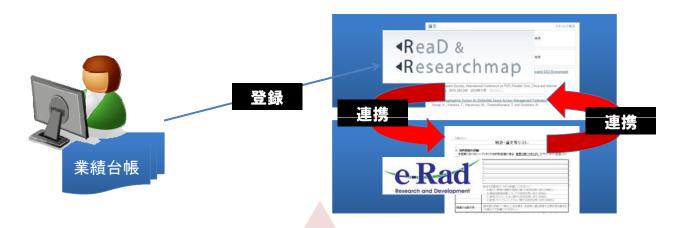
37

2-1. 7 ReaD & Researchmapとの連携



これから

ReaD & Researchmapの情報を活用できるように!



- ・ReaD & Researchmapへ登録・連携をおこなうと、業績/略歴情報がe-Rad応募情報として活用できるようにする。
- ・また、e-Radに応募情報として新規に登録した業績を、ReaD & Researchmapに自動送信。

2-1. ⑧ 応募情報の引き戻し(研究者)

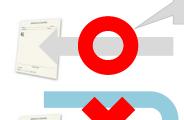


これまで

応募情報を一旦提出してしまうと、研究機関の事務担当者へ依頼しない限り、再度編集

できるようにならない。





事務代表者/事務分担者は「修正依頼」 という形で研究者へ戻すことが可能。



事務代表者

研究者は提出した情報を自分 で出し直しすることができない。

<問題点>

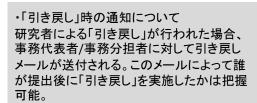
- 【研究者】提出後にミスに気付いた際に、事務担当者へ連絡をしなければ修正が行え ない。
- 【研究機関】依頼のたびに、修正依頼の処理を行う手間がある。

2-1. ⑧ 応募情報の引き戻し(研究者)



これから

研究者自身で、提出した応募情報の出し直しを可能に!



「引き戻し」可能なタイミング 研究機関から配分機関へ提出するまで。



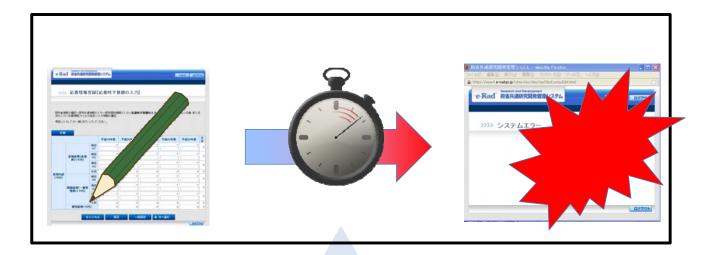
直し(「引き戻し」)ができるようになる。

- ・【研究者】事務担当者へ連絡を行う手間なく、修正作業が可能。
- 【研究機関】依頼のたびに、修正依頼の処理を行う必要がなくなる。

2-1. 9 画面へのタイマー表示機能



これまで



<問題点>

一定時間以上、操作をせずに放置していると、自動的にシステムを終了させていただく 「自動終了方式」を採用→入力途中の内容が全て消えてしまう。

41

2-1. ⑨ 画面へのタイマー表示機能



これから

カラータイマーの表示でログアウトまでの時間を確認



画面を表示してから経過した時間 (00:00:08)

画面を表示して最後に操作した時間からの経過時間を表示。

タイムアウトは30分だが、20分になると赤色になり、システム操作を促します。30分になった時点で「タイムアウト終了」というメッセージが表示されます。

く改善ポイント>

最後に操作した時間を把握することで、自動終了までの時間を把握。

2-2. ① 公募案内のメール通知



これまで

e-Rad上に公募情報が掲載されたとしても、特に通知の連絡があるわけではない。





<問題点>

- ・【研究者】自分が応募できそうな公募情報を見逃す危険がある。
- ・【研究機関】研究費の情報を取得するために、定期的にサイトを訪れる手間がある。

43

2-2. ① 公募案内のメール通知



これから

自身の研究分野に該当する公募登録のお知らせが届くように!

自身の「研究分野」を登録しておくことで、その「研究分野」に該当する公募情報が公開された時点で自動的にメール受信できるようになる。

注意1) 登録された「研究分野」は応募時の「研究分野」の初期値としても利用される。

注意2)事務代表者/事務分担者に対しては、 全ての公募情報がメール通知される(「受信 しない」設定も可能。)

注意3) 旧システムで受け付けた応募/採択課題情報は、今回の変更に伴って何らかの申請時に変更していただく必要がある。



自身の研究分野に該当 する場合のみ、メール通 知が行われる



全ての公募情報についてメール通知

- ・【研究者】自分が応募できそうな公募情報を常に把握することができる。
- 【研究機関】研究費の情報を取得するために、余計な手間を割かずに済む。

2-2. ② 公募検索機能の追加



これまで



◆ 応募情報入力 ボタンをクリックして、配分機関の 公募を総当たりで確認する必要がある。

<問題点>

- ・公募検索機能がない。
- ・自分が応募できる公募情報を探すのがとても面倒。

45

2-2. ② 公募検索機能の追加



これから

思い立ったらすぐに検索!



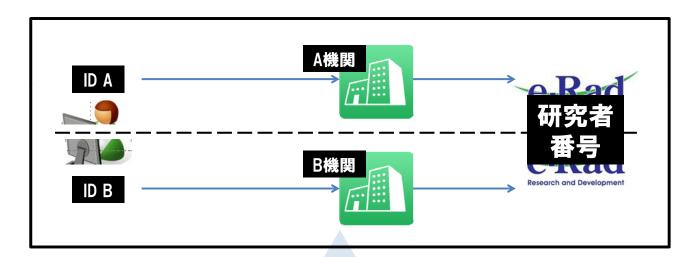
く改善ポイント>

キーワードを始め、分野や公募期間等、様々な条件で検索ができるようになる。

2-3. ① 機関別ログインIDの統合



これまで



<問題点>

- ・研究者番号は一意だが、所属する研究機関ごとにID・パスワードが必要。
- ・所属する機関の数だけID・パスワードを覚えなければならず、とても面倒。

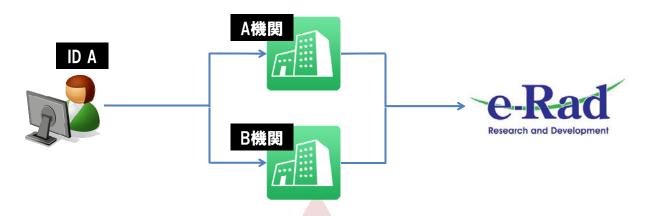
47

2-3. ① 機関別ログインIDの統合



これから

覚えるのは1つのIDだけ



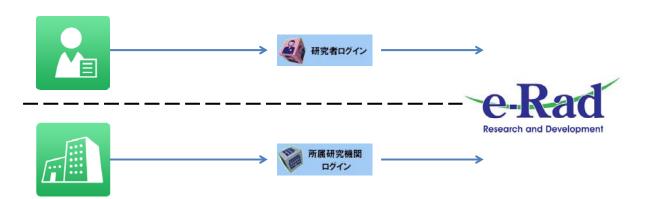
く改善ポイント>

一つのIDで、複数機関から申請可能。

3. ① ログイン画面の統合



これまで



<問題点>

・利用者の属性ごとにログインページが別なため、別の属性のページでログインしようと すると、正しい情報を入れてもログインできない。

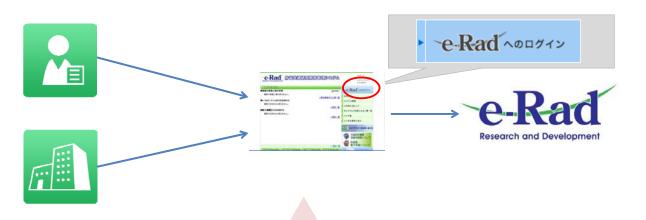
49

3. ① ログイン画面の統合



これから

全てのユーザが同じページからログインできるように!



- ・ログイン画面へのボタンを一つに集約。
- ログインに関するトラブルの軽減。
- ・画面構成のシンプル化。

3-1. ② ページの内容に沿ったヘルプ情報の表示





<問題点>

- ・PDFファイルが巨大であり、ダウンロードやファイルを開くために時間がかかる。
- ・開いている画面に沿った内容が表示されるわけではないため、該当箇所を探す 必要がある。

51

3-1. ② ページの内容に沿ったヘルプ情報の表示



これから

開いているページの内容に沿ったヘルプを表示できるように!

PDFファイルではなく、HTMLでヘルプページを作成。開いているページに該当する内容を表示できるようになる。



- ・ページごとに分割された形で表示できるため、表示が素早くなる。
- ヘルプを開いた後の、該当箇所を探す手間の軽減。

3-1. ③ エフォート管理機能の強化



これまで

以下のとおり、閲覧/変更が行える範囲に制限が存在する。

	旧システム				
	研究	研究機関			
エフォート確認対象	閲覧	変更	閲覧		
研究代表者としての課題情報	0	0	0		
研究分担者としての課題情報	×	Δ	×		

※各記号の意味

〇:閲覧/変更可能

△:代表者経由で可能

×:閲覧/変更不可

一:未対応

<問題点>

- ・【研究者】e-Rad上でエフォート管理対象課題情報を全て表示することができない。
- ・【研究機関】自機関に所属している研究者の応募・採択状況の確認が行えない。

53

3-1. ③ エフォート管理機能の強化





これから

関わりのある全ての課題情報を閲覧でき、変更申請も可能に!

		旧シス	ステム	新システム		
	研究者		研究機関	研究者		研究機関
エフォート確認対象	閲覧	変更	閲覧	閲覧	変更	閲覧
研究代表者としての課題情報	0	0	0	0	0	0
研究分担者としての課題情報	×	Δ	×	0	0	0
e-Rad管理外の課題情報※1	-	-	-	0	0	0
その他の活動※2	-	-	-	0	0	0

- ※1 e-Radで応募する以外の研究費課題情報のエフォート。本人が任意で登録。
- ※2研究活動以外の職務として行う.研究活動や教育活動等に関するエフォート。

- 【研究者】自身のエフォート情報の管理を自分自身で行えるようになる。
- ・【研究機関】自機関に所属している研究者の全ての応募・採択状況を常に把握することができるようになる。 54

補足)エフォート管理のチェック方法の変更と管理徹底のお願い

新システムでは、エフォート管理のチェック方法が変更されます。

<経緯>

[「第4期科学技術基本計画」(平成23年8月19日閣議決定)より抜粋]

国及び資金配分機関は、資金配分の不合理な重複や過度の集中を避けるため、大学及び公的研究機関に研究者のエフォート管理を徹底させるとともに「府省共通研究開発管理システム(e-Rad)」を運用し、競争的資金を適切かつ効率的に執行する。

〈チェックの変更点〉

旧システムの場合

システム上では制御せず、100%を超える研究者については定期的に事業担当者から修正を依頼。



新システムの場合

システム上で採択済み課題のエフォート合計が100を超える場合には採択が行えない※ように制御。採択以降も100%を超える変更申請は行えないようにする。

※ 結果を登録できない場合、配分機関より当該 研究者の所属する研究機関又は研究者宛に確 認の連絡をさせていただきます。



管理機能を強化しておりますので、適切なエフォート管理をお願いします。

55